

化学理工学専攻

I. 群別志望区分

1. 創成化学群

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
101	機能材料設計学分野 教授 藤田 晃司 准教授 Wei Yi 助教 小畑 由紀子 機能材料の設計, 無機合成化学, 無機材料の精密構造解析	物質機能・変換科学分野	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う
102	無機構造化学分野 准教授 下間 靖彦 無機構造化学, レーザー化学, アモルファス工学, 機能性ナノ材料			
103	応用固体化学分野 本区分は, 今年度, 募集は行わない。			
104	有機反応化学分野 教授 大宮 寛久 准教授 長尾 一哲 助教 村上 翔 有機反応化学, 有機合成, 創薬化学, ケミカルバイオロジー			
105	有機分子化学分野 教授 中尾 佳亮 助教 柏原 美勇斗 加藤 夏己 有機合成, 有機金属, 触媒反応, 電子共役材料, 有機元素化学			
106	材料解析化学分野 准教授 小山 宗孝 野中 洋 電気化学分析, ケミカルバイオロジー, 生体分子化学, 脳神経化学			
107	高分子機能物性分野 教授 浦山 健治 准教授 堀中 順一 助教 大林 駆 高分子レオロジーソフトマテリアルの物理化学, 高分子力学物性, 高分子ゲル, 高分子液晶材料, 天然高分子材料			
108	生体材料化学分野 教授 沼田 圭司 講師 大前 仁 助教 辻 優依 ロー サイモンサウイン 渡部 康羽 高分子材料化学, 生体高分子材料, 生体機能材料, バイオマテリアル			
401	先端機能高分子分野 本区分は, 今年度, 募集は行わない。	物質機能・変換科学分野 生命・医工融合分野		
402	機能高分子合成分野 教授 杉安 和憲 助教 渡邊 雄一郎 深谷 菜摘 高分子合成, 機能性高分子, 超分子ポリマー, 自己集合, 導電性高分子, 分子マシン, ゲル, ソフトマテリアル			
403	高分子生成論分野 教授 大内 誠 助教 西川 剛 高分子合成, 精密重合, リビング重合, ラジカル重合, カチオン重合, 機能性高分子, 高分子精密合成, 重合触媒設計, 配列制御, 環状高分子			
404	重合化学分野 教授 田中 一生 助教 権 正行 伊藤 峻一郎 重合化学, 有機合成化学, 元素化学, 無機高分子, ヘテロ原子含有共役系高分子, 有機-無機ハイブリッド材料, 重合中間体の化学			

405	<u>生体機能高分子分野</u> 教授 佐々木 善浩 助教 水田 涼介 生体高分子の自己組織化と機能, バイオインスパイアード科学, バイオハイブリッド材料, 環境応答材料, 生体膜工学, ナノ粒子, DDS, 再生医療		
406	<u>高分子機能学分野</u> 教授 大北 英生 准教授 山本 俊介 助教 Hyung Do Kim 高分子ナノ構造, 高分子光・電子物性, 有機薄膜太陽電池, 光化学, 高分子薄膜, 電子移動, 分光法	物質機能・変換科学分野	
407	<u>高分子分子論分野</u> 教授 中村 洋 准教授 井田 大地 助教 領木 研之 高分子溶液学, 光・小角 X 線散乱法, 粘度法を用いた高分子溶液の性質の解明, 溶液中の孤立高分子, 高分子鎖ダイナミクス, 高分子集合体の分子論的理解		
408	<u>基礎物理化学分野</u> 教授 古賀 毅 准教授 古谷 勉 講師 小島 広之 高分子物性に関する理論・計算機シミュレーション・実験, 高分子系の相転移, 相転移ダイナミクス, 高分子レオロジー, ゲルの物理化学, 高分子の結晶化機構		
409	<u>高分子物質科学分野</u> 教授 竹中 幹人 准教授 小川 紘樹 助教 中西 洋平 柴崎 和樹 高分子構造, 高分子固体物性, 高分子高次構造解析と制御, 高分子系の相転移のダイナミクス, 中性子・X線・光散乱, 光学・電子顕微鏡, ブロックコポリマーの誘導自己組織化, 高分子結晶		
410	<u>高分子材料設計分野</u> 本区分は, 今年度, 募集は行わない。		
411	<u>高分子制御合成分野</u> 教授 山子 茂 助教 秋吉 美里 制御重合, 精密高分子合成, リビング重合, ラジカル重合, ラジカル反応, 環状π共役分子, 有機合成化学, 元素化学, 機能性材料, ソフトマテリアル, 高分子結晶		
412	<u>生命分子化学分野 (仮称) *</u> 教授 林 剛介 ペプチド・タンパク質化学, 生体分子ミメティクス, 有機合成化学, 進化分子工学, 合成生物学, 創薬化学, ケミカルバイオロジー, 生化学, 分子生物学, エピジェネティクス		生命・医工融合分野 物質機能・変換科学分野
413	<u>発生システム制御分野</u> 教授 永樂 元次 准教授 大串 雅俊 助教 三井 優輔 再生医療, 幹細胞工学, 細胞生物学, 発生生物学, 多細胞動態, 医療用デバイス		

* 印の分野について研究内容及び指導教員等に関する質問がある場合は、佐々木教授へ問い合わせること。

メールでの問い合わせは sasaki.yoshihiro.8s★kyoto-u.ac.jp で受け付ける。

(メール送信時には★を@に変えてください)

2. 先端化学群

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
201	<u>固体化学分野</u> 教授 陰山 洋 准教授 高津 浩 ZHU Tong 助教 加藤 大地 固体化学を基盤とする複合アニオン化合物や水素材料等の新物質開発と合成法の開拓、超伝導体、磁性体、誘電体、電池材料、触媒などの新機能創出	物質機能・変換科学分野		
202	<u>工業電気化学分野</u> 教授 安部 武志 助教 宮原 雄人 電気化学、リチウム電池や燃料電池の反応とその材料、界面における電子・イオンの移動、イオン導電性材料、ナノ材料の合成			
203	<u>機能性材料化学分野</u> 教授 作花 哲夫 准教授 西 直哉 助教 横山 悠子 界面科学、界面現象と界面構造形成、界面の分光化学的解析、油水2相系およびイオン液体をもちいる機能性柔軟界面の構築			
204	<u>基礎炭化水素化学分野</u> 准教授 三木 康嗣 助教 Huiying Mu 高機能性造影剤による腫瘍イメージング、生体内環境を可視化する分子プローブの開発	物質機能・変換科学分野		
205	<u>先端医工学分野</u> 教授 近藤 輝幸 准教授 木村 祐 助教 三浦 理沙子 疾患特異的分子プローブ、および診断と治療を同時に実現するセラノスティクスプローブの設計・合成・機能評価、均一系触媒を用いる機能性分子の原子効率的合成	物質機能・変換科学分野		
206	<u>触媒機能化学分野</u> 教授 阿部 竜 助教 富田 修 鈴木 肇 太陽光エネルギー変換・人工光合成のための新規光触媒開発、環境汚染物質浄化のための光触媒・触媒開発、高効率有機資源変換のための新規触媒反応設計	生命・医工融合分野	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う
207	<u>触媒有機化学分野</u> 教授 藤原 哲晶 講師 仙波 一彦 新規遷移金属錯体触媒の開発、反応機構解明ならびに機能開拓、環境保全に資する高効率分子変換反応の開発			
208	<u>触媒設計工学分野</u> 准教授 松井 敏明 燃料電池構成材料と電極反応、炭化水素からの水素製造触媒、環境浄化やエネルギー変換のための無機材料、機能性無機材料の物性評価	物質機能・変換科学分野		
209	<u>有機分子変換化学分野</u> 教授 中村 正治 准教授 磯崎 勝弘 講師 PINCELLA Francesca 助教 道場 貴大 新たな有機金属反応活性種の創出と新規機能性有機分子および超分子の創製による化学資源活用型の有機合成反応の開発			
210	<u>構造有機化学分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。			
211	<u>遷移金属錯体化学分野</u> 教授 大木 靖弘 助教 谷藤 一樹 伊豆 仁 遷移金属クラスター錯体の設計・合成および反応性開拓、金属-硫黄タンパクの生物無機化学、エネルギー変換を志向した分子触媒の開発			

212	<u>同位体利用化学分野</u> 教授 佐藤 哲也 原子番号が 100 を超える重元素・超重元素の化学的性質の解明、機能性表面をもつ放射線検出器の開発およびこれを利用した迅速単一原子溶液化学研究手法の開拓、有用放射性同位体の合成・化学的分離手法開発	
213	<u>有機機能化学分野</u> 教授 深澤 愛子 光・電子機能性有機材料の創製を指向した新奇パイ共役分子の設計・合成法開発と集合体機能の探求、電子受容性炭化水素の創製と機能開拓、特異な電子状態をもつ共役電子系の創製	
301	<u>量子理論化学分野</u> 教授 佐藤 啓文 准教授 森 俊文 講師 Nguyen Thanh Phuc 助教 杉山 佳奈美 浦谷 浩輝 量子化学・統計力学理論の開発と応用、溶液、蛋白質など凝縮系・材料における化学反応・化学過程のダイナミクスと機構の解明	
302	<u>分子理論化学分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。	
303	<u>量子機能化学分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。	
304	<u>触媒反応化学分野</u> 教授 寺村 謙太郎 准教授 井口 翔之 助教 浪花 晋平 不均一系および均一系触媒開発の基礎化学、光触媒化学および環境触媒化学、酸化還元触媒、固体酸塩基触媒、触媒反応ダイナミクス、触媒物性と機能発現	
305	<u>光有機化学分野</u> 教授 今堀 博 准教授 東野 智洋 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発、ナノカーボン材料の創製、典型元素の特徴を活かした機能性有機材料の開発	
306	<u>物性物理化学分野</u> 教授 関 修平 准教授 田中 隆行 助教 筒井 祐介 物性物理全般（光機能分子設計・物性計測・反応解析・活性化過渡種）、高分子物性、分子集合体物性、ナノ構造物性	物質機能・変換科学分野
307	<u>量子物質科学分野</u> 教授 水落 憲和 准教授 森岡 直也 助教 西川 哲理 無機スピナーフォトンクス材料の創製、ダイヤモンド中の発光中心、超高感度・超高分解能センサ、バイオイメージング	
308	<u>分子レオロジー分野</u> 教授 石毛 良平 高分子に関わるソフトマター物理化学、液晶場を活用した高分子の配列・配向制御とそれに基づく機能化、散乱法と各種分光法を駆使した高分子の構造解析と構造-物性相関の解明	
309	<u>有機分子材料分野</u> 教授 梶 弘典 准教授 鈴木 克明 助教 CHOI Heekyoung 有機デバイス（特に有機 EL）の創製と基礎科学の構築、有機デバイス応用のための量子化学計算、有機合成、固体 NMR および DNP-NMR による構造-有機デバイス機能相関の解明	
310	<u>量子分子科学分野</u> 教授 佐藤 徹 振電相互作用、機能性分子の理論設計、反応性指標	
311	<u>細孔物理化学分野</u> 教授 SIVANIAH, Easan 講師 Namasivayam, Ganesh Pandian 多孔質物質の水の浄化への応用、多孔性物質のガス分離への応用	

501	<u>有機設計学分野</u> 教授 杉野目 道紀 准教授 Juha Lintuluoto 講師 山本 武司 助教 良永 裕佳子 新反応開拓、機能分子の合成化学、新規有機金属反応剤のデザイン及び創製、新規精密重合反応の開拓、新しい触媒的不斉反応システムの開拓、キララらせん高分子の機能開拓	物質機能・変換科学分野	
502	<u>有機合成化学分野</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。		
503	<u>機能化学分野</u> 教授 生越 友樹 助教 加藤 研一 大谷 俊介 分子空間化学、超分子材料化学、超分子触媒の開拓、カーボン空間材料の創製、高分子リン光物質の創製		
504	<u>物理有機化学分野</u> 教授 松田 建児 講師 東口 顕士 助教 清水 大貴 物理有機化学、有機機能材料化学、有機ナノテクノロジー、超分子光化学、光応答分子システム、分子エレクトロニクス材料		
505	<u>有機金属化学分野</u> 教授 石田 直樹 助教 奥村 慎太郎 有機化学および有機金属化学における新現象の発見、社会的な要求に応える合成反応と機能性有機化合物の開発		
506	<u>生物有機化学分野</u> 准教授 田村 朋則 生物有機化学、機能性生命分子のデザインと創製、in vivo 有機化学の開拓、超分子バイオマテリアル、ケミカルバイオロジー	物質機能・変換科学分野	
507	<u>分子生物化学分野</u> 教授 高橋 重成 助教 植田 誉志史 分子生理学、医化学、がん生物学、化学進化、進化生物学、分子医工学、創薬工学、生体イオン制御、細胞内シグナリング		
508	<u>生体認識化学分野</u> 教授 三木 裕明 准教授 船戸 洋佑 助教 橋爪 脩 生化学、分子生物学、細胞生物学、脳神経生物学、がん生物学、細胞内シグナル伝達、生体金属イオン制御		生命・医工融合分野
509	<u>生物化学工学分野</u> 教授 跡見 晴幸 准教授 佐藤 喬章 助教 道盛 裕太 微生物ゲノムを基盤とした生物化学・生物工学、極限環境微生物の代謝生理、遺伝子工学、ゲノム工学、生体機能化学、合成生物学、システムズ生物学、生物進化学		
510	<u>分子集合体化学分野</u> 教授 古川 修平 機能性錯体化学、超分子固体化学、多孔性材料、動的結晶材料、ソフトマテリアル、化学的多様性をもつ材料		

3. 化学プロセス工学群

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育 プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
601	<u>ソフトマター工学分野</u> 教授 山本 量一 准教授 谷口 貴志 助教 John J. MOLINA 複雑流体・ソフトマターの移動現象や非平衡プロセスに関する基礎的研究, 特に, 計算機シミュレーションを用いた高分子液体・コロイド分散系・ベシクル。細胞組織などに関する基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換科学分野	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う	化学理工学専攻の定める教育プログラムに従う
602	<u>界面制御工学分野</u> 准教授 渡邊 哲 助教 平出 翔太郎 界面制御工学, ナノ拘束空間工学, 特に, 分子やイオンのナノ細孔空間特有の挙動と構造, 吸着場や液膜場によるナノ粒子群の構造形成と制御, 秩序相・固相発生過程の基礎研究			
603	<u>反応工学分野</u> 教授 河瀬 元明 講師 蘆田 隆一 反応工学, 材料反応工学, 電気化学反応工学, 特に, 気相材料合成反応と燃料電池等の電気化学反応プロセスのモデリング, 劣質炭素資源の新しい転換プロセスの開発	物質機能・変換科学分野		
604	<u>分離工学分野</u> 教授 佐野 紀彰 助教 鈴木 哲夫 分離工学, 吸着工学, 乾燥工学, 特に電界, 高周波電磁場, 放電を利用した分離法・材料プロセスの開発, ナノ材料の合成・エネルギー分野への応用	物質機能・変換科学分野		
605	<u>エネルギープロセス工学分野</u> 教授 田辺 克明 助教 宮本 泰汰 材料工学, 電子工学, ナノテクノロジー, 特に, 自然・再生可能エネルギー生成, 高効率エネルギー利用など, 資源および環境問題の解決につながる技術の開発	応用力学分野 物質機能・変換科学分野		
606	<u>材料プロセス工学分野</u> 准教授 長嶺 信輔 材料プロセス工学, 特に微粒子, ファイバー, 多孔質材料の創製, 構造制御と機能発現, 材料プロセス工学に基づいた新規食品の開発	物質機能・変換科学分野		
607	<u>プロセスシステム工学分野</u> 教授 外輪 健一郎 講師 殿村 修 プロセスシミュレーション, プロセスの最適設計・操作, プロセス制御・監視・データ解析, マイクロ化学プラントの最適設計・操作に関する研究	応用力学分野 物質機能・変換科学分野		
608	<u>環境プロセス工学分野</u> 准教授 牧 泰輔 助教 村中 陽介 環境プロセス工学, マイクロ化学操作論, 環境反応工学, 特に, バイオマスの新規転換法の開発, マイクロリアクターの開発と設計・操作論, 生分解性プラスチックの分解挙動に関する研究	物質機能・変換科学分野		
609	<u>粒子工学分野</u> 本区分は, 今年度, 募集は行わない。	物質機能・変換科学分野		
610	<u>グリーンプロセス工学分野</u> 准教授 中川 浩行 グリーンプロセス工学, 低品位炭素資源転換工学, 特に水素の効率的な生成と有効利用法の開発に関する研究, 二酸化炭素排出抑制のためのプロセス開発	物質機能・変換科学分野		

611	<u>動的界面化学分野</u> 教授 マクナミー キャシー 音や液流、磁場といった非平衡状態をもたらす界面現象についての研究、特に身近に存在する実在系の安定性を決定づける表面間力の制御。得られた知見に基づく様々な機能性薄膜の創製に関する研究		
612	<u>移動現象論分野</u> 教授 前多 裕介 助教 別府 航早 丸山 博之 分子・エネルギー・情報の流れに関する移動現象論、特に、アクティブマターの運動と構造、分子モーターのエネルギー論、細胞と細胞組織の合成生物化学など、自律的に流れを制御する新規材料の基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換科学分野	

II. 募集人員

215名(創成化学群 75名*、先端化学群 106名*、化学プロセス工学群 34名*)

*ある群での合格者数が定員に満たない場合には、他の群で定員を超えて合格させる場合がある。

III. 出願資格

募集要項 Part A 「II-I 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時、試験科目

8月5日(水)	9:00 ~12:00 専門科目1	13:00 ~15:30 専門科目2	16:30 ~18:30 口頭試問
---------	-------------------------	--------------------------	-------------------------

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスタで行う。詳細は後日通知する。

V. 入学試験詳細

全群共通

[英語] 配点 150 点

提出された成績表(公式認定書)に基づき、TOEIC テストの成績を 150 点満点に換算する。

成績証明書の提出方法については、下記(1)を参照のこと。

創成化学群

[専門科目1] 配点 500 点

有機化学(250点) 物理化学(250点)、いずれも必須問題。

[専門科目2] 配点 300 点

高分子化学(必須)および無機化学・分析化学・生化学から2科目選択(合計3科目・各100点)

先端化学群

[専門科目1] 配点 500 点

有機化学(250点) 物理化学(250点)、いずれも必須問題。

[専門科目2] 配点 300 点

無機化学（必須）および融合化学・分析化学・生化学・化学工学から2科目選択（合計3科目・各100点）

化学プロセス工学群

[専門科目1] 配点 500点

基礎物理化学、移動現象（2題）、分離工学（2題）、粒子工学、プロセス制御、基礎有機化学の8題から5題選択

[専門科目2] 配点 300点

化学工学量論（熱力学含む）、化学工学数学、反応工学（2題）、プロセスシステム工学の5題から3題選択。ただし、化学工学数学の出題範囲は、微分積分学、線形代数学、常微分方程式、ベクトル解析、複素解析、偏微分方程式とする。

(1) 英語の学力評価と成績証明書について

TOEICテストの成績を150点満点に換算する。このため、学力検査日（8月5日）から過去2年以内に受験したTOEIC Listening & Reading Test 公開テストの「公式認定書」(Official Score Certificate)の原本、または「デジタル公式認定書」(Digital Official Score Certificate)を印刷したものを提出すること。TOEICのIPテストの成績は受け付けない。提出方法については下記を参照。

提出方法

- 1) 7月28日（火）の午前9時から午後5時の間に、Aクラスター事務区教務課へ直接提出。
- 2) 7月28日（火）に配達されるよう配達日指定のうえ、下記宛先に書留郵便で郵送。いずれの方法でも提出がない場合には、理由にかかわらず英語の得点は0点となる。

成績証明書の送付先：

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛（化学理工学専攻 入試担当）

(2) 筆記試験

試験室では必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。別途指示する入室時間までに入室すること。試験開始時刻から30分経過後は入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退室を認めない。使用できる筆記器具は鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削りに限る。コンパス、定規、電卓等の持ち込みは認めないが、専門科目の試験時には、受験者に関数電卓を貸し出す場合がある。携帯電話、スマートウォッチ、イヤホン、ウェアラブル端末を含む電子機器類は、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合は不正行為とみなすので、注意すること。

(3) 口頭試問

受験生全員に対して口頭試問を行う。8月5日（水）午後4時15分までに受験票交付時に指示する控室に集合すること。各試験室で「連絡届」用紙を配布するので、連絡先（携帯電話が望ましい）を明記して担当試験監督に提出すること。同届を提出しなかった場合、受験者の不利益になることがある。

(4) 有資格者及び合格者決定法

学科試験および口頭試問の結果に基づいて合否判定を行う。

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請

合格者の研究室配属は、「志望区分申告票」(様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること)により申告した志望区分番号に基づいて行う。下の記入方法(1)－(3)に留意して「志望区分申告票」に記入し、6月12日(金)午後5時までに下記の提出先に直接提出または送付(必着・簡易書留便)すること。E-mailでの提出は認めない。願書とは提出先が異なるので注意すること。

提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛(化学理工学専攻 入試担当)

問い合わせ: 電話: 075-383-2077、E-mail: 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

提出方法

- (1) 「I. 群別志望区分」を参照して「志望区分申告票」の志望区分番号欄に志望順位1位から順に区分番号を記入すること。志望区分申告票は群別に別様式となっており、第1希望の研究室が属する群の志望区分申告票を1通だけ提出すること。群を跨いで研究室を志望することはできない。創成化学群では志望順位18位まで、先端化学群では志望順位30位まで、化学プロセス工学群では志望順位11位までで記入すること。本年度募集を行わない研究室を志望することはできない。
- (2) 「志望区分申告票」には氏名を記入し、押印すること。
- (3) 区分番号の重複や空欄などの不備がないように注意すること。不備のある場合には、受験者の不利益になることがある。

京都大学工学部理工化学科(工業化学科)以外の他大学・他学科を卒業見込みの留学生出願者について

京都大学工学部理工化学科(工業化学科)以外の他大学・他学科を卒業見込み(あるいは卒業)の留学生は、志望区分申告票で志望順位1位とする講座・分野の教員に必ず事前連絡すること。

また、外国の大学を卒業見込み(あるいは卒業)の場合は、志望区分申告票で志望順位1位とする講座・分野の教員と事前連絡をとる前に必ずアドミッション支援オフィス(Admissions Assistance Office/AAO)で手続きを行うこと。詳しくは、以下のホームページに掲載しているので、確認すること。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aa0/index.html/>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には5種類の教育プログラムが準備されている。履修できる教育プログ

ラムは以下のとおりである。

- (1) 修士課程教育プログラム
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (応用力学分野)
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (物質機能・変換科学分野)
- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (生命・医工融合分野)

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「I. 群別志望区分」を参照のこと。

また、教育プログラムの内容については、工学研究科ホームページ

(<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69/dosj69?>) および

「VIII. 教育プログラムの内容」を参照のこと。

VIII. 教育プログラムの内容 (修士課程教育プログラム・高度工学コース・融合工学コース)

学問分野としての化学が社会から受ける要請は、人類を取り巻く環境の変化と共に急速に変化し、広がりつつある。化学理工学専攻は、そのような社会的要請に応え、基礎的な科学知識を深く理解し、実際の社会問題の解決に活かすことのできる、知的価値の創出に優れた研究者・技術者を育成する。

[修士課程教育プログラム]

本プログラムでは、体系化された講義と演習科目等に基づいた高度な教育によって専門知を体系的に深く習得させ、高度な研究活動を伴うオンザリサーチトレーニングによって、知の創造と社会問題の解決に必要な総合知と研究能力を涵養する。また、機動的かつ分野横断的に構成された研究組織での研究活動により、学際知を合わせて涵養し、修了後に産官学で幅広く活躍する研究者を育成する。

[高度工学コース]

本プログラムでは、博士後期課程と連携し、体系化された講義と演習科目等に基づいた高度な教育によって専門知を体系的に深く習得させ、高度な研究活動を伴うオンザリサーチトレーニングによって、知の創造と社会問題の解決に必要な総合知と研究能力を涵養する。また、機動的かつ分野横断的に構成された研究組織での研究活動により、学際知を合わせて涵養し、修了後に博士後期課程に進学し、産官学における各セクターを牽引するリーダーあるいは高度専門人材として幅広く活躍できる人材を育成する。

[融合工学コース]

工学研究科のホームページ (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) を参照すること

IX. その他

試験当日受験票を忘れた受験生は、速やかに A クラスター事務区教務係にその旨を申し出ること。

問合わせ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛(化学理工学専攻 入試担当)

電話:075-383-2077

E-mail: 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp